2019.9

Networking Jewish Evangelism

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP関西センター3F TEL. 072-867-6721 FAX. 072-867-6721

2019.9.01発行

-部 ¥ 200

Eメール lcjejapan@hotmail.com

ホームページ LCJEJAPAN.com

郵便振替 LCJE日本支部·00950-4-25633

卷頭言

カナダの先輩



ティックーン・ジャパンパートナーシップ シオンとの架け橋 石井田 直二 アルコイリス・ミニストリー 早川衛 LCJEアーカイブス 黒田 禎一郎 P8 7Pの続き お知らせ 事務局より

P2▶4

LCJE 日本支部コーディネーター $\,\,$ $\,$ $\,$ クリンゲンスミス

LCJEニュースの愛読者の皆様にお祈りとご支援の感謝 を申し上げます。皆様のご支援とお祈りの励ましのおかげ で、カナダのトロントで行われた 2019 年LCJE国際大会 にLCJE日本支部が二人の日本人を送ることができました。 石黒イサク先生と石井秀和氏が有意義なセッションに積極 的に参加して、LCJE日本支部やLCJEニュースのために いろいろな学びと情報を持って帰ってくださいました。日本 支部は、そのカンファランスの様子と情報を皆様に提供す るために二つの催しを計画しています。9月14日(土)に 二か所で報告会が行われます。 石黒先生が大阪の KIBC で、 石井氏が東京の OCC で報告してくださいます。 開催時間 などをLCJEホームページなどでご確認ください。

さて、LCJEの国際会議はカナダのトロントでしたので、 カナダの有名なユダヤ人キリスト者を紹介いたしましょう。 イサク・ヘルムット師 (1819年12月14日~1901年5月 28日)という19世紀の聖公会の働き人は、カナダのオン タリオ州の女子教育や大学教育の開拓者でありカナダの歴 史に名が残る人物です。ヘルムット師は、ついに聖公会のビ ショップとなり、同じ 19 世紀の聖公会のもう二人のユダヤ 人キリスト者ビショップ、マイケル・アレグザンダー師 (エル サレムの旧市街にあるクライストチャーチが拠点)そして、 サムエル・シェルシェフスキー師 (上海や中国奥地伝道、中 国語聖書翻訳など)と並んでいます。

ヘルムット師は、その二人と同じように東ヨーロッパの敬 虔なユダヤ教の家に生まれました。現在ポーランドのワル シャワで父親はラビでしたので、自分もラビになるための勉 強を励みました。ヘブル語の聖書や他の古い言語の聖書訳、 そしてタルムードをマスターしました。しかし、ブレスラウ大 学(現在ヴロツワフ大学)に在学中、ロンドン・ユダヤ人宣 教会が派遣したメシアニック・ジュウであったS・ノイマン師 に出会いました。同じユダヤ人ということで預言者の書物や タルムードについてよく話し合った結果、イエス様がイスラ エルのメシアだという確信に至りました。

ポーランド系ユダヤ人のシェルシェフスキーと同様、イエ ス様を信じた一つの結果として、自分の母国を出ることに なりました。ヘルムット師はイギリスのリバプールにさらなる

キリスト教神学の勉強のために移り住み、1841年に同じ口 ンドン・ユダヤ人宣教会に所属したイギリス国教会のH・ジョ セフ師によって洗礼を受けました。1844年、神学の学びを 終えてカナダに移民し、1846年、カナダのケベックの聖公 会のビショップによって牧師按手を受けました。

19世紀の聖公会(英国教会に関連する各国の教会)には、 イギリス、合衆国、カナダもそうでしたが、神学の対立する 派閥がいくつかありました。ヘルムット師は、聖公会の福音 派、しかも、たくましい信仰者でありました。ヘルムット師は、 福音を次世代に無事に渡すために、カナダに福音を土台と する教育機関を増やさねばならないと考えました。

そこで、ヘルムット師は資金集めに力を入れて、カナダの 聖公会の福音派のためにヒューロン・カレッジを創立しまし た。さらに、一般教育のために1871年、現在の西オンタリ オ州大学を設立しました。西オンタリオ州大学は、現在カ ナダの名門大学の一つで極めてレベルの高い大学です。同 じころに、ヘルムット女子大学も女子教育のために創立しま したが、その大学はついに他の大学に合併されました。

その教育活動の途中、ヘルムット師は 1871 年にヒューロ ン地区のビショップの按手を受けました。その頃のオンタリ オ州は未開拓の土地でしたので、人口が徐々に増えると教 会開拓や伝道も必要になりました。従って、ヘルムット師は 教会創立にも力を入れました。1871 年から 1883 年まで、 このヘルムット師のヒューロン地区の活動期間には、教会 の数は 149 から 207 まで増やしました。 牧師が 92 名から 135 名に増え、教会学校は 110 から 166 に増加しました。 ヒューロン地区の総教会員数は、4390 から 8910 となり ました。

イサク・ヘルムット師は、こうして自分に託された働きを よく励んだのではないでしょうか。自分がユダヤ人だという 誇りを持っていたヘルムット師は、 ビショップであってもいろ いろな形で反ユダヤ主義の差別などを受けましたが、それ を乗り越えて忍耐強く教会のあらゆる機関を増やしました。

私たちはどのような教団教派であっても、ヘルムット師が 遺した模範から学べることが多くあるのではないでしょうか。

参考: Jewish Witnesses For Christ (A.Bernstein 著)

シモン・アミット氏の本誌連載原稿に対する応答3

ティックーン・ジャパンパートナーシップ代表世話人

ホープチャベル 主任牧師 スティーブン・ケイラー 日之出キリスト教会 牧師 行澤 一人



本論文は Ariel Blumenthal が執筆し、Dan Juster、Asher Intrater、Eitan Shishkoff、Ron Cantor、Guy Cohen そして Gil Afriat がこれを承認した。翻訳は、行澤一人が担当した。

「Tikkun の回復主義神学に基づく声明」(3・完) 2018 年 8 月

序章

第1章 イスラエルの物理的・霊的回復

第2章 教会の回復

- A. メシアのからだ/教会にある一致
- B. エペソ 4:11-13 に従った、みからだなる教会の新約 的リーダーシップの回復
 - #A. 私たちが使徒と預言者について信じて「いない」 こと

·······(以上、前号)·······

#B. 私たちが使徒、預言者、5役者そして教会政治について信じて「いる」こと

1. 私たちは、教会は「指導的な長老」を含む長老たちによって治められるべきものと信じます(使徒 14:23、テトス 1:5、使徒 15 章)。そして指導的な長老の立場は永続的なものではなく、時間の経過とともに他の長老に交代され得るものであり、また必ずしも「牧師」と呼ばれる必要はないと私たちは考えます。長老たちの間においては、それぞれ誰が、教師、伝道者、牧師、預言者としてふさわしいかを認識することが重要です。さらに、もし誰かが牧師と呼ばれるにしても、それは永続的な称号ではなく、むしろ働きのための賜物と召しを認識するためのものです。パウロは、使徒であることを自らの称号(Paul the Apostle もしくは Apostle Paul)として主張したことはなく、むしろ使徒の一人として(Paul an apostle)自らを表しました。

使徒的リーダーは、教会政治に関しては、地域教会の長老に対する権威を持っていません。使徒は地域教会の長老たちに仕え、彼らを支え、強めることを自らの務めとするのであり、彼らを支配するものではないからで

す。使徒による霊的権威は、むしろ地域教会の長老たちを助け、見守り、また彼らの信頼性を担保することにあります。それゆえ、使徒は、ある長老の不適切な行為についての申告に対処し、また地域教会の長老たちの間に生じた深刻な対立や不一致を解決することを助けるために地方教会に赴くのです。極端な場合には、使徒は、地域教会におけるリーダーの職務を解く権威を有します(幸い、Tikkunに属する教会については、このような措置が必要となったことは一度もありません)。

2. 私たちは地方教会やそのリーダーは孤立するのではなく、共通の長老のリーダーシップの下で、相互に信頼性を高めあうべく繋がることが本来の姿であると信じます。この交わりに責任を負うリーダーが、特に諸教会の一致を保つことに心を砕いているのなら、彼らこそ使徒と呼ばれるにふさわしいのです。そして彼らのリーダーシップは、5 役者のレベルにおける預言者と共に働くとき、この地に神の御国を戦略的に前進させるのです。

このようなリーダーが常に教会を導いてきました。私たちは、使徒とは5役者というチームのリーダーであり、パウロ-私たちが聖書から最も多くの情報を得られる人物である-のように、他の4つの職務についての感性と賜物を十分に備え、このチームを効果的かつダイナミックにまとめ上げることができるような者であると信じています(もっとも、私たちはヨハネ17章やエペソ4章における一致が、すべての教派や地方教会が使徒15章におけるエルサレム会議のように「一人の」長老の指導の下に結集されなければならないことを意味しているとは信じていません。事実、イスラエルのような小さな国またそのキリストの体においてさえ、少なくとも4ないし5つの非常に独立した地方教会のネットワークが存在します)。

3. 使徒とはまず何よりも地方教会もしくはあらゆる種類のミニストリーの開拓者であります。ペテロとヨハネがサマリアに遣わされたことに、この特徴を見ることができます。また、パウロが、「遣わされた者」(宣教師)として、福音が一度も語られたことのない町々を巡り、そこで魂の初穂を獲得するばかりでなく、彼らを新約的

共同体にまで建て上げていったことこそ、その最たる例です。

さらに長老たちを育成することも、使徒が果たすべき機能です。だから、パウロがテトスに対してあらゆる町に長老を任命するように命じたことは使徒的機能であったし、使徒14章23節において描かれているパウロとバルナバの働きにおける重要な使命の一つがまさにこれでした。

4. 私たちはリーダーシップのあらゆるレヴェル(長老 にしろ、5役者の務めにしろ)において、互いに仕えあ うことの価値こそが、謙遜を保ち、成功に至るための鍵 であると信じています。罪とプライドの故に、リーダーシッ プにはいつもピラミッド構造になってしまう危険が伴って おり、ややもすると最も力が強かったり、賜物に非常に 恵まれていたり、あるいは最年長の者が位階秩序のトッ プに立って肉の方法で権威を行使するということがおこ りかねません。イェシュアこそ私たちの「偉大な使徒」(へ ブル3:1)、主の主、そして私たちが絶対的に服従すべ き唯一のお方です。だから、天の下にあっては、私たち リーダーはみな誰かをピラミッドの頂点に押し上げない ような仕方で、互いが互いに従うようにしなければなり ません。だからこそ、Tikkun において、Dan、Asher、 Eitan は、今日に至るまで一緒に歩んでこれたのです。 彼らは、それぞれが最も強みを持つ領域において互いに 従うことを学んできたのです。

世界中で、私たちは、この原則を理解し、実践する使徒的チームが、健全かつバランスのとれた働きをしているのを見ます。このような態度は、妬みや競争心ではなく、かえって互いに協力しあうことで、お互いが自らの務めを十全に果たすことができるようにします。こうして互いに共に歩むことで、5役者の務めは、偉大な使徒であり、預言者、伝道者、教師、そして牧者であられるお方-イェシュアを十全に現すことができるのです。

5. 互いに従うことと霊的権威について。

私たちは、地方教会、ことに現地の人々から成る (indigenous) 教会には、当該地域に対して、霊的及び「地上的な」領域の双方において固有の権威があると信じています。例えば、もし私たちが日本における宣教もしくはその他のどんな働きについてであれヴィジョンを持った場合、最初に既存の日本の教会と何らかのコミュニケーションを持ち、協力し、そして彼らに仕えて、彼らから祝福を受けることなしに、やみくもに日本に行って

自分たちの働きを始めるということはまったく実際的ではありません(もちろん、未だ福音が語られたことも教会もない未伝地もしくは民族グループであれば当然違った話になります)。まずは日本の教会の歴史、必要、希望、そして戦略に従うために何らかの努力がなされなければなりません。

同じことはイスラエルにも当てはまります。2世代、いや1世代前でさえ、ユダヤ人教会やアラブ人教会は、非常に小さくて、ほとんど見えないような存在でした。しかし、今日では、そうではありません。イスラエルと諸国民双方の残れる者(レムナント)のリーダーがそれぞれ互いに従うことは、端的に、このような仕方でお互いに敬意を示していることを表しています。そして、これこそが「新しい一人の人」である教会の主要な特質であり、エペソ書 3:10 の成就、そして福音によって諸国を変革し(transformation)、大宣教命令を全うするための鍵であるのです。

6. 預言者の言葉について。

2世紀もしくは3世紀に預言の賜物は終止したと信じ る人にとっては、今日において預言者が存在するはずも ないでしょう。しかし、神は今日も預言者を起こされて いるという見解を否定しない人々のために、私たちの見 解を述べたいと思います。5役者のレベルの預言者は、 聖霊から新鮮な活ける神の御言葉を教会のために聞くこ とに、その情熱を注ぎます。このタイプのリーダーは常に、 しかも当然のごとくに、相当の時間を礼拝と静聴に捧げ ます。預言者は戦略的に教会と長老チームを導くための 啓示をいただくことを切に願っており(使徒 13;1 におけ るように)、その啓示はしばしば預言的な言葉や夢、幻、 その他新しく聖書の御言葉に光を照らすような仕方で与 えられます。このような預言者の務めは、ある特定の時 点における信仰共同体のための神の特別な御心を識別 するために重要であり、だからこそ彼らはエペソ書2: 20 におけるように、しばしば使徒と並んで言及されてい るのです。

多くの教会や霊的運動は、聖霊の働きと預言的なリーダーによって始められました。しかし、やがて彼らが預言者や預言的な働きを認めることができなくなることによって、それは古びたものになってしまいました。聖霊の新鮮な風を見分けてキリストのからだに聖なる柔軟性をもたらし、教会が聖霊と歩調を合わせながら、絶えず変化し続ける時代や社会に適応することができるように助けるのが、預言者なのです。もちろん預言者も他のリー

ダーとの間で、特に使徒と教師に対して、お互いに仕え あう者でなければなりません。それは預言者が受ける啓 示が健全な聖書の教えの境界線を越えてしまわないため です。

また、イスラエルにおける最近の批判(特に偽預言者に関する申命記 18:22 などが引用されることが多い【訳者注】)に接して、私たちは、新しい契約の下では、預言の賜物を用いることにおいて、必ずしも 100%の正確さが求められているわけではないことを述べたいと思います。この点については、私たちが最近ヘブル語と英語で書いた論稿を、次の URL においてご覧いただきたいと存じます (https://tikkun.tv/we-prophecy-in-part/)。

第3章結論

最後に、私たちが初めに引用した御言葉である使徒 3: 21 に戻りたいと思います。それは、Tikkun すなわち万物が改まる(回復する) ことについて語っています。主は、過去 150 年にわたって、以上述べてきたような「神の御国」についての聖書的な真理に関する諸側面が回復されるペースを加速してこられたと私たちは信じています。

この時代に、イスラエルの回復(物理的にも、霊的にも)と新約の教会(エクレシア)の回復が同時に平行して進行してきたことを私たちが目撃しているのは、偶然ではないのです。この事実は、ローマ書 11:11—15、25—26 においてイスラエルと諸国との間に認められる、相互的な祝福に関する「なおさら」の原則(how much more)についての私たちの理解とよく符号します。

このような預言の成就に関する諸側面が同時に完成へと向かって進んでいく時どんなことが起こるのでしょう。それはまるで核分裂反応のようです。イスラエルとエルサレムの回復、ユダヤ人レムナントの信仰、本物の5役者、新しい一人の人としての教会(エクレシア)ーこれらの要素を一緒に合わせていくほどに、終わりの時代のリバイバル、世界宣教、諸国の変革、聖霊の傾注、そしてついに我らの主イェシュアの再臨を迎えることに向かって、より大きな力が解き放たれていくのです(Ariel Blumenthal はこのことをその著書「新しい一人の人」において『完成公式 (Fullness Formula)』と呼び、Asher Intrater は最近の著書のタイトルと同じく『アラインメント (Alignment)』という概念で、終わりの時代における回復の加速と求心力の高まり、そしてこれら全ての回復主義的要素の成長において現れる相乗効果

を説明しています)。

Tikkun は、過去 40 年間このことを教えてきたし、 それを祈り、それを生きてきました。私たちばかりでなく、 他の人々もまさに私たちの目の前でこれらのことの成就 が加速されるのを目撃しています(その証しを紹介する には紙幅が足りません)。もちろん、私たちは大いなる 背教に関するイェシュアの言葉 (マタイ 24:10) を無視 するわけではありません。また、私たちは聖書が終わり の時代における艱難、迫害、大いなる暗闇と終末時代を 通じて世界に現れる大災害を予見しているという事実を 「覆い隠す」わけでもありません。しかし、本当に事態 が悪化すると、私たちは地上から携挙されて、後は世界 の最後の姿と栄光ある主の再臨を天国の巨大なスクリー ンか何かでただ眺めるだけという観念には、誤った慰め しか見いだすことができません。預言者イザヤは、終末 に近づいていく地上に生きることがどのようなものであ るかということに関して、栄光ある逆説を次のように要 約しています。

「起きよ。輝け。まことに、あなたの光が来る。主の栄光があなたの上に輝く。見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を。しかし、あなたの上には主が輝き、主の栄光があなたの上に現れる。国々はあなたの光のうちを歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。」イザヤ書 60章1~3節(新改訳 2017)

イザヤは、深い、深い闇・・・しかしそこに偉大な栄光が輝いているというのです。でも、その光はどれくらいのものでしょう。主が来られる前の時代において私たちが見る栄光とはどのようなものでしょうか。数字や割合の問題に帰らなければならないとしたら・・・あえて父なる神はある数字を心に秘めておられると言いましょう。そして、父は主の再臨までに75%の成就に達することをあらかじめ決めておられると言いましょうか(もちろん、父はこれらのことを正確に測ることのできる唯一のお方です)。

.....(中略)

最後に、私たちは、自分たちだけがこれまで述べてきた真理の排他的所有者であり、リーダーであるなどとは全くもって<u>信じていません</u>。私たちは、この御国の成就の幻に導かれて祈り、協力している、イスラエルと諸国の双方における多くの兄弟姉妹に心から感謝しているのです。



イスラエルの重要性を学ぶ(3) 叫びを聞かれる神

......

シオンとの架け橋 石井田 直二

聖書研究会で行われた12回シリーズの学び「イスラエルの重要性を学ぶ」から、LCJE機関誌向けにリライトしてご紹介しています。今回の聖書箇所は出エジプト記 2: 23-25 です。

アブラハムの子孫たちは、選民とされ、輝かしい契約を与えられながらも、4百年間も奴隷になるという過酷な運命を与えられました。そして今日の朗読箇所では、彼らが神に叫ぶと、神はそれを聞いて契約を「思い出された」(出エジプト記 2:24,6:5)と記されています。神は、ご自分を指してまでお誓いになったのに、その約束を「忘れて」おられたのでしょうか。

■契約関係の重要性

ここから学べる第一の事柄は、神との契約関係の重要性です。旧約時代、イスラエルの民は、神との契約がある唯一の民族でした。イスラエルは契約があるから、叫べば神が約束を「思い出し」て下さったのです。異邦人にはもともと契約が無かったのですから、思い出してもらう術がありませんでした。

それはエペソ 2:12 でパウロが、異邦人が「いろいろの 契約に縁がなく、この世の中で希望もなく神もない者で あった」と言っている通りなのです。

ところが、新約時代になると、私たち異邦人もその契約に縁ができました。新約もまた、イスラエルの家とユダの家 (エレミヤ 31:31) と立てられたのではありますが、私たちもまたキリストの血によって「近いもの」とされ、契約の対象に含まれたのでした。これば良い知らせ」です。

本誌読者の皆様も、私も、異邦人でもともと契約に縁が無かったのに、神の「選び」によって契約に加えられたのでした。洗礼を受けて何十年という時が流れると、「この世の中で希望もなく神もない者であった」という過去を忘れがちで、ついつい契約に縁があって当たり前だと思ってしまいます。だから「記憶しておきなさい」(エペソ2:11)とパウロは言うのです。

神様にも「思い出して」いただく必要があるのですが、 それ以上に、忘れっぽい私たちは時々、契約を思い出す 必要があるのです。

■「叫ぶ」ことの重要性

そして、ここから学べる第二の事柄は、神に「叫ぶ」ことの重要性です。神は、4百年後にエジプトからイスラエルの民を贖うと決めておられましたが、カレンダーに印をつけて「さあ、時が来た」と腰を上げられるわけではなく、民が叫ぶ声を聞いて腰を上げられるようなのです。

バビロンからの帰還もそうでした。七十年後に帰還するとの預言を見つけたダニエルは、引っ越しの準備を始

めたのではありません。民に代わって悔い改めの祈りを した(ダニエル9章)のです。その祈りを聞かれた神は、 それを実行する命令を出されたのでした。

もちろん、神は人間のように物忘れはされません。「主はお忘れになることはない」(ヘブル 6:10)のです。それでも神は、たぶん人が叫ぶのを心待ちにしておられるのでしょう。それはちょうど、親が子供にクリスマスプレゼントの約束をするようなものです。クリスマスの日に忠実にプレゼントを買って帰っても、子供がすっかり忘れていて「これは何?」と言ったのでは台無しです。親は、日が近づいて来ると、子供から「お父さん、クリスマスプレゼントは何?」と何度も聞かれることを期待しています。神は、人の叫びを聞いて動くことを好まれるのです。

イスラエルの最大の問題は、彼らが真の神に願い求めず、他の神、自分、近隣の大国などにばかり頼ったことでした。出エジプトの前、イスラエルの民はまだ真の神を知らなかったようですが、少なくともエジプトの神には叫ばなかったようなので、神はその叫びを聞かれたのです。

私たちが受けた新約は、イスラエルの受けた旧約よりも強力なのですが「叫びを聞いて神が腰を上げる」という点は同じです。イエスの名によって父に求めるならば、父は答えて下さる(ヨハネ16:23-28)のです。神は私たちに必要なものを全てご存じ(マタイ6:8)なのですが、それでも私たちが求めるのを待っておられます。

■イスラエル回復の祈り

日本のLCJEは今まで、直接的な伝道活動というよりも、祈りを重視する活動をして来ました。また、私たちシオンとの架け橋も、90年近くも積まれたイスラエル回復の祈りの流れをくんでいます。イスラエルを回復させることは、何度も何度も約束されていることではありますが、それでもなお、誰かが、その約束の成就のために祈る必要があるのです。

イザヤ書 62 章の冒頭には、イスラエル回復の成就まで眠らず休まず叫び続ける方が登場します。旧ホーリネスの賛美歌「イスラエルの救」では、それが御霊だということになっていますが、その後6節あたりまで読み進めると、どうやらイスラエルの民も、イスラエルのために執り成す者も、みんなが休まずに叫び続けないといけないようです。一緒に祈り続けて行きましょう。



使徒たちや預言者たちは消え去ってしまったのか?

アルコ・イリス・ミニストリーズ代表 早川 衛

ご存じのとおり、LCJE News 2019 年 5 月号から 7 月号に「ティックーンの教理は何を教えているのか」が掲載された。そして、2019 年 7 月号から、同文章に対するティックーンの公式コメントが掲載されている。このことをとおし「使徒たちや預言者たち」についての議論が引き起こされた。当初は困惑したのだが、現在は、このことの中に肯定的な側面もあるように感じている。今回は、この議論をとおして考えさせられた幾つかのポイントに触れることとする。

エペン人への手紙 2 章 19 節から 22 節には、次のように書かれている。「19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。20 使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。21 このキリストにあって、建物の全体が組み合わされて成長し、主にある聖なる宮となります。22 あなたがたも、このキリストにあって、ともに築き上げられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。」

土台と基礎は混同されやすいのだが、これら二つは 異なるものである。基礎の上に土台が置かれ、土台の 上に柱が建てられるからである。ギリシャ語で基礎は themelios、土台は hedraiómaである。上記 20 節の「土 台」は themelios であるため、本来なら基礎と訳される べきであろう。同節にある「要の石」は、基礎の中で最 初に置かれる石である。つまり、使徒たちや預言者たち は、要の石と一体化した基礎を構成するものである。こ のようにキリストの体は建物に例えられる。第一ペテロの 手紙 2 章 4 節から 5 節にも「主のもとに来なさい。主は、 人には捨てられたが神には選ばれた、尊い生ける石です。 あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、 神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献 げる、聖なる祭司となります。」と書かれている。

ここで生じる質問がある。要の石であるキリストは生きており、その体も生きている。では、その基礎である使徒たちや預言者たちだけが消え去り、伝道者、牧師、そして教師だけが残るのだろうか。もし、そうだとしたら、キリストの体の一部は壊死している、と言えるのではないか、というものだ。

エペン人への手紙 4章 11 節は「こうして」あるいは「そして」で始まり「キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。」と続く。つまり、キリストが使徒たちと預言者たちを立てる前に、何

らかの事象が存在したのだ。同4章7節から10節を読むなら、それは、キリストの昇天であり、その後、キリストが贈り物を与えたことである、と理解される。その贈り物には、聖霊が含まれる。つまり、聖霊降臨以降に立てられた使徒たちや預言者たちがいる、ということになる。そして、キリストが使徒たちや預言者たちを立てた目的は、キリストの体である教会の成長である。エペソ人への手紙4章12節から16節には「それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。

私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。こうして、私たちはもはや子どもではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです。キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになります。」と書かれているからだ。

ここでも生じる質問がある。教会は現在も成長の途上 にある。それなのに、教会の頭であるキリストは、その 成長のために立てた使徒たちや預言者たちを取り去り、 伝道者、牧師、教師だけを残すのか、というものである。

エペン人への手紙には、使徒たちと預言者たちについて書かれた3つの節がある。2章20節、3章5節、そして4章11節である。それぞれに「建てられていて」、「啓示されています」、「お立てになりました」という動詞が用いられているのだが、全てがアオリスト(Aorist)である。アオリストは、文法上のアスペクト(様相)の一種であり「境界のない」や「範囲が不確定」に由来するものであって、不定過去と訳される。つまり、単に過去の事柄を表すものではない、と言える。筆者には、ギリシャ語の文法を論じる知識はない。しかし、このような観点からも、使徒たちや預言者たちについて論じるキリスト者が起こされることを願う。

最後に「神の国は、ことばではなく力にあるのです。」(第一コリント人への手紙 4章 20節)を記すこととする。今パウロが現われたら、今日の教会に何と言うのだろう。「あなたがたは議論している。しかし、あなたがたのことばではなく力を見せてもらいましょう」と言うのではないだろうか。



「なぜ?」と問うユダヤ人伝道

ミッション・宣教の声主幹 黒田 禎一郎

イエスにこう言い送った。「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、私たちは別の方を待 つべきでしょうか。| (マタイ 11・3)

現在、どれほどのユダヤ人がメシア来臨を待ち望んで いるのでしょうか。これは、私たちが時々耳にする質問 です。メシアニック・ジュー指導者の一人であるは、「大 多数のユダヤ人は、メシア来臨の期待感を持ってはいな い」と語っています。自らがユダヤ人でイェシュアをメシア と信じているハリス師は、同胞ユダヤ人に対する伝道を 次のように語っています。

■ユダヤ人のメシア観

正統派ユダヤ教徒はメシア観を持っていますが、それ は聖書の伝統に基づくものにすぎません。しかし、その 正統派ユダヤ人は民族全体から見れば20%以下にすぎ ません。しかも現状は、彼らが持つメシア観の多くは地 上平和をもたらすメシア像にすぎません。それはユダヤ人 が過去の歴史上に立ち、未来の安定を求めているからで す。聖書が語るメシア論と、そこに大きな違いがあります。

ハリス師は、ユダヤ人の歴史を見ればその気持ちは分 からないわけではないと言います。何世紀にもわたり、 迫害、差別等をくり返し受け続けてきたユダヤ民族、と くに中世においては多数の偽メシアが出現しました。そ れに彼らの心の傷が癒されない内に、反ユダヤ主義行動 によって次々に起こった迫害とホロコーストは、ユダヤ人 の心を懐疑的にさせてしまいました。しかし、欧米のク リスチャンの大多数は「ユダヤ人はメシア待望論をいだい ている」と思っているのです。それは正しくありません。 真のメシア待望論をもっているユダヤ人は、ほんの少数 にすぎないのです。

そのような一般的ユダヤ人に、聖書(とくに預言書) が語るメシア(イエス・キリスト)を説いても、先ず心に 響くものではありません。せいぜい、丁寧な言い訳で反 論を受けるだけです。むしろ、次のように言うべきです。 「あなたがメシア来臨を期待しているならば、あなたはど のような備えをしていますか。熱狂的なメシア論を語る 人たちには、それが真実かどうか、どのように説明して くれますか」。このようなアプローチこそ、彼らの心をと らえる意義深い方法です。

■ユダヤ人伝道

では、正統派ユダヤ教徒に伝道することは困難でしょ

うか。ハリス師は、必ずしも困難とは言えないと言います。 なぜなら彼らは、改革派や保守派の人たちより宗教的規 律をはるかに守っているからです。大切な点は、彼らが どのようなグループの人かではなく、個人としてどう考え るかです。西側に住む多くのユダヤ人は、宗教的ユダヤ 人より信仰面において、はるかに防衛的です。少し考え てみてください。宗教的ユダヤ人は朝起きると、祈りか ら一日が始まります。彼らは、常にユダヤ人として行動を とるのです。宗教人としてシナゴーグへ通い、規律を守 り忠実な信仰生活を送ります。口に入る食物はコーシェ ルを通ったもので、それ以外は拒否します。彼らが着る 衣服は、どこにいても一目でユダヤ人であることは明らか です。彼らはユダヤ人であること、宗教人であることを誇 りとしていますので、イェシュアについて論じること自体 問題はありません。

それに比べて非宗教人であるユダヤ人は、むしろユダ ヤ人としてのアイデンテイテイーが低く感じられます。で すから彼らに宗教的問いかけをすると、どうしても防衛 的姿勢になります。私たちのメシアニック・ジュー集会に 参加するユダヤ人は、ユダヤ人として教育を受けた人もい ますし、神とイスラエルとの関係を持つ人たちもいます。 しかし共通点は、彼らは集会で語られる説教と教えに、 関心を示していることです。結論として、これまで語られ たような規律、習慣、伝統を横に置き、またどんなグルー プやユダヤ研究機関かということも横に置き、彼らが「な ぜ?」と考える質問へ導くことです。すると彼らは関心と 注意を払い、霊的真理を追求しようとするのです。

■ユダヤ人は聖書を知っているか

それでは、ユダヤ人は異邦人の私たちより旧約聖書を 知っているのでしょうか。その質問に応答する前に、大 多数のユダヤ人は聖書を読んでいないことを知ってくださ い。おかしな話しですが、「聖書の民」と呼ばれユダヤ人 が肝心の聖書を読まず知らないのです。ユダヤ人が知っ ているのは、「アダムとイヴ」、「ノアの大洪水」、「ソドム とゴモラ」、「ヨセフ・ストリー」、「ダビデとゴリアテ」位 です。しかも、信じているわけではありません。むしろ ラビの教えと伝統あるタルムードの教えに耳を傾けるの

・・・・・・・・・ 次ページへ続く▶

一例を挙げてみましょう。数年前、ロスアンジェルス の公園でサッカー試合があり、私は見学に行きました。 イェシィバ(ユダヤ教神学校)の青年たちが、そこでサッ カー試合をしました。彼らは将来ラビになる人で、エリー トでした。試合が終わり、幸いなことに彼らと話し合う 時間がありました。私がユダヤ人であり、イェシュアをメ シアと信じていることを伝えました。とても良い話し合い の時間を持てました。すると一人の青年が、「もしイェシュ アがメシアであるならば、なぜ多くのユダヤ人は信じな いのですか。とくにラビたちが信じないのですか。」と言 いました。そこで私は、「真理とは、必ずしも大多数が信 じているからではない」と返答しました。

そこで私は、モーセの時代イスラエルの民は、金の子

牛を作り偶像礼拝に陥ったことを話しました。大多数は 偶像礼拝に走ってしまったのでした。カナンの地へ12人 の斥候が派遣されました(民数記13章)。前進を主張し た斥候は、ヨシュアとカレブの2人だけでした。20歳 以上の60万人のうち、生きてカナンの地に入ったのは この2人だけでした。私はその他の聖書個所も引用し、 聖書の真理と祝福は人数で決まるのではないことを伝え ました。そして、君たちは「なぜ?」だと思うかと問いか けました。

私は、多くの宗教的ユダヤ人は、聖書を真の意味で知 らないことを知っています。ですから、彼らが「なぜ?」 と疑問を持つように会話することが、ユダヤ人伝道を進 めていく中で重要なことです。どうぞ、ユダヤ人伝道前進 のため、つづいてお祈りください。

LCJE日本支部事務局レター

LCJE は、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場・活動を 尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJEとして支持するものではあり ません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断してくださいますよう、お願いいたします。

2019年度祈祷会予定 3

場所	10月	11月	12月	会場
大阪(6:30より)	10日	7日	12日	北浜スクエア(VIP関西センター8F)
東京(1:30より)	12日	9日	14日	御茶ノ水クリスチャンセンター 8F 811号室

【大阪祈り会にご参加される方へ】第二木曜日午後6時半開始です。

【東京祈り会にご参加される方へ】ご注意ください▶通常祈り会の会場は、811号室ですが、変更される場合があります。 階下の掲示板をご覧になってご参加ください。

トロントで行われた…**LCJE 国際大会報告集会 9月14日(土) 開催**…是非ご参加ください!

東京会場 お茶の水クリスチャンセンター・ホール……14時~ 講師:石井 秀和牧師 大阪会場 VIP 関西センタ8階・・・・・・・・・・・・・・・・・・14時~ 講師:石黒イサク牧師

●お問合せ:|cjejapan@hotmail.com ☎ 072-867-6721 担当:高瀬まで 入場無料/席上献金あり

LCJE日本支部2019年7月度会計

収入・献金	ž	支出・現金
科 目	金 額	科 目 金 額
献金	152,060	事 務 費 17,800
大阪祈り会席上献金	10,000	NEWSレター製作費 50,120
		郵 送 費 39,800
		郵 便 振 替 手 数 料 4,200
		通 信 費 5,500
		賃 借 ・ 管 理 費 21,600
		高 熱 費 ・ 共 益 費 9,800
		交 通 旅 費 7,000
		祈 り 会 経 費 14,000
		国際大会出席費
슴 計	162,060	合 計 169,820
		差 引 残 高 -7,760
前月よりの繰越	170,790	翌月への繰越 163,030

事務局よりのお知らせ

072-867-6721 まで。宜しくお願い致します。

LCJE日本支部では、皆様からの 御投稿をお待ちしています。インター ネットでの御投稿、原稿用紙での御投稿いずれも大歓迎いたします。 文字数は 2000 文字前後でお願いいたします。投稿記事は、封書 で送っていただくか、LCJEJAPAN@HOTMAIL.COM 又は FAX

コ・ワーカーの皆様お元気でしょうか。暑 編集後記 い毎日が続きますがお体ご自愛ください。編 集作業をさせていただく事は本当に祝福です。なぜなら見えないも のが見えるという体験をさせていただけるからです。集まってくる原 稿を校正する作業は大変ですが祝福の時なのです。 今月の LCJE ニュースもイスラエルを愛する方々の興味深いニュースお手元へ届け られる幸いに感謝しています。今月も、まだ主とお出会いしてないユ ダヤ人には一日も早く主とお出会いし救い主を受け入れ、救われます 様にお祈りください。9月の大阪祈り会、東京祈り会はトロント国際 大会の恵みの報告会です。是非予定に入れてくださりご出席くだい ますようお願いいたします。心注いでイスラエルの平和を執り成しお 祈りいたしましょう。コ・ワーカーお一人お一人に主の祝福がありま すように。 シャローム LCJE日本支部事務局長 高瀬真理

LCIE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝